

令和元年度 新潟県少年の主張大会 村上・岩船地区大会

中学生が自分の主張を堂々と発表

8月22日(木)、令和元年度 わたしの主張「村上・岩船地区大会」が教育情報センターで開催され、郡市内各中学校の代表10人が、日常生活を送る中での感じたことや考えについて、自分の主張を堂々と発表しました。

審査委員長を務めた鈴木正美さん(村上市岩船郡校長会会長)は「自分の身近な体験や経験をもとに、中学生らしい新鮮な考えで主張し、前向きに自分や社会の未来を切り開くという強い決意が感じられ、私たち大人も学ぶべきことが多い内容だと感じました」と講評。最優秀賞に選ばれた阿部汐里さんは、9月21日(土)に本市で開催された新潟県大会に、村上・岩船地区の代表として出場しました。

優秀賞

荒川中学校3年生

眞田 歩望



優秀賞

村上中等教育学校3年生

大泉 茜



いちばんの理解者

児童虐待や親子の殺傷事件がニュースで報じられています。忘れてはいけない親への感謝。家族こそいちばんの理解者であると私は父を失って気付きました。

私からの手紙

私は、自分の考えを伝える方法に決まった形はなく、その形が「物」や「行動」であっても、全ては誰かのための手紙だと思っています。今まで自分が受け取った手紙を今度は私が届けます。

— 奨励賞 —



山北中学校
3年生
近藤 葉香



朝日中学校
2年生
中山 麻衣



岩船中学校
2年生
鈴木 怜



村上東中学校
3年生
本間 愛幸



村上第一中学校
3年生
二ノ瀬 愛桜

勇気をもって自分から

勇気をもって手話であいさつしたら、その方がたいへん喜んでくれました。笑顔で過ごすことができるように、何事にも勇気をもって自分から積極的に行動できる人になりたいです。

家族の病気を通して学んだこと

家族の病気を通して「大変なのは本人だけではない」ということを感じました。病気になった人が治療に専念することができるよう、会話をすることは、とても大事だと私は学びました。

決めつけないで

テレビ番組を見て、人を見た目などで決めつけてはいけなと思います。いつかこの世界から差別が無くなるように、私はその人の本当の姿を知りたいです。

本当の友達とは

友達とのケンカを通して「友達」について考えました。友達は仲間であり相談相手にもなってくれます。言葉遣いや態度に気をつけて、今後の生活に生かしていきたいです。

「走る」とどういふか

「走る」ことから気持ちが離れかかっていた私。実業団の選手の走りを見て「あんな風に走りたい」と思い、あの日見た「理想の走り」に近づけるように日々練習しています。



最優秀賞

神林中学校3年生

あべ しおり 阿部 汐里

出せなかった手紙

拝啓 会ったことのない妹へ。

あなたが天国へと旅立つてから、十二年が経ちましたね。あなたが生きていたら、私はあなたとどんなことをしたのでしょうか。けんかをたくさんするのでしょいか。逆にすぐく仲良しで、いつも二人でいるのでしょうか。考えるといろんなことが浮かんできます。

私は今まで、お墓参りのときくらいしかあなたに、自分に妹がいたという事実を意識を向けたことがありませんでした。正直、生まれてから顔も見なかったのあなたに、私は興味がなかったのかもしれない。ごめんね。あなたに謝りたい気持ちでいっぱいです。

私があなただのことについて考え始めたのは、あるニュースを見たことがきっかけでした。信号待ちをしていた保育園児たちが自動車事故の巻き添えになり、二人の保育園児が亡くなったというのです。亡くなった園児たちの親御さんは、気が狂つぽ

どの悲しみに襲われたことでしょうか。想像しただけで胸が苦しくなりました。

そんなとき、ふとあなたのことが頭に浮かんだのです。なぜなのかは、自分でもわかりません。気が付けば、事故で子供を亡くした親御さんの気持ちと、自分の母親を重ねていました。

その日から私は、あなたについて考え始めました。「あなたはいつ生まれて、いつ死んでしまったの。」「何が原因で死んでしまったの。」「あなたの名前は、何になる予定だったの。」「あなたについて知りたいことが、たくさん浮かんできました。」

私は、母にあなたのことを聞きました。私の知らない、あなたのことをお母さん、たくさん教えてくれたよ。「あなたが平成十九年五月三十日にお腹の中ですでに死んでしまっ、生まれたこと。」「へその緒が首に巻き付いてしまい、死んでしまったこと。」「あなたの名前は、『伊

万里』になる予定だったこと。」「たくさん、たくさん話してくれまし

た。そのあと、私はあなたの母子手帳を見せてもらいました。生まれた日や時間、性別、体重など、私と同じように書かれていました。ただ一点、「死産」という言葉に〇印がつけられている以外は…。

私は泣いていました。自分に妹がいたということ、それと同時に、あなたがもうこの世にいないということ。一つの事実を前にして、喉のすつと奥のところが「ぎゅっ」となるような、そんな感覚に襲われました。きつと私は、この時初めて、小さいころから聞いていたあなたの死を、事実として受け入れたのだと思います。

ねえ、伊万里。私の歩んできた十五年の人生は、決して楽しいことばかりでなかったけれど、たくさんの人に愛され、幸せいっぱいの人だったよ。伊万里のことを考えるようになって、自分の人生がきらきらしているように感じるんだ。お母さんは「こんな悲しい思いをするのなら、子供ができないほうがよかった」と思ってたって話してくれただけ、それは違つと思うんだ。伊万里のことがあったから、私は人の死に敏感になった。伊万里の死が、私の人生に繋がっている…そう思ったら、この世に意味のないことなんか何一つな

いんだって思えた。だから、私がいままでしてきたこと、これからすること、必ずどこかに繋がっていて、意味のあることなんだって思う。伊万里がいなくなったことは、私に大切なことを教えてくれた気がするよ。

最近、本気でバレーの県大会を目指していた私は、夢破れて引退しました。好きなことばかりしていたお兄ちゃんは、スケートボードの代表選手として日の丸をつけてスペインに行きました。人生は不公平です！

親愛なる妹、伊万里へ。私の人生の瞬間瞬間に意味を持たせ、色を付けてくれたのはあなたです。大人になつても、おばあちゃんになつても私は人を思いやり、目の前のことをひたむきに頑張つていきます。「お姉ちゃんの人生、こんなに素敵だよ。」と胸を張つてあなたに言えるように。

※このほかに市外(岩船郡)の代表で高橋初菜さん(栗島浦中学校3年生)と、高橋正汰さん(関川中学校2年生)が奨励賞を受賞しました
※全員の主張は、新潟県のホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください

●問い合わせ

村上地域振興局保健福祉部
(村上保健所内) ☎53・8361